

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ぼけっと		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 1日 ~ 令和6年 11月 15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和6年 11月 1日 ~ 令和6年 11月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 11月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	◆活動スペースの広さ	日々の活動で使用している主となるスペース(1階ホール)からすぐに個室(静養室)に移動できるような環境整備を行っている。 宿題などの個別対応時は別室を使用している。 また、大きく体を動かす活動は、2階の広いスペースを使用している。	職員配置や利用人数、生活レベルに応じて1階と2階に分けて支援を行っている。また、静と動の動き等、活動内容によっても細かく使い分けていく。
2	◆プログラム内容の充実について	個別活動のワークでは、職員のみで準備するのではなく、お子様と一緒にプログラム等で制作し、準備の段階でも楽しさや達成感を味わえるようにしている。集団活動では、お子様に手本を行ってもらいなど、活躍できる場の提供をしている。 職員間で事前に話し合った上で、様々な内容のプログラムを立案・実施している。	季節感を感じられるような取り組みを増やしていく。 研修や勉強会など様々な場へ向いたり、各々の職員が勉強することでお子様や保護者様のニーズに沿ったプログラムを実施出来るようにしていく。
3	◆職場の雰囲気 風通しが良い職場の雰囲気作り	毎月の施設会議や日々の会話の中で、職員の悩みや困り事の確認を行い、働きやすさを追及している。 お互いの強みを活かせるよう役割分担を行いながら、支援や日々の業務にあたっている。	コミュニケーションを大切に、職員の強みを生かした支援ができるよう連携を図っていく。
4	◆幅広い年齢層の他児との関わり 小学校1年生から高校3年生までのお子様と一緒に活動している	年齢の異なる他児と過ごすことで、日常生活に必要なスキル等を真似しながら習得したり、関わり方(上下関係)を学んだり出来るよう、他児との関わりを大切にしている。	事業所内だけではなく、他事業所や地域のお子様と関わる事が出来る活動を立案・実施していく。
5	◆多方面への送迎 学校(児童クラブを含む)やご自宅までの送迎の実施	保護者様の要望に応えられるよう送迎時間の調整等を行うことで、保護者様の負担軽減に繋げている。 定期的な面談や送迎時、連絡帳を活用し、要望を確認している。	保護者様の要望に対応できるよう、都度職員間で話し合い調整を行っていく。 送迎車内においても、お子様に満足していただけるように関わっていく。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	◆保護者様同士の関わり	保護者様同士が顔を合わせる機会が少ないこと。 保護者様やご兄弟が参加できるイベントが少ないこと。	保護者交流会、保護者参観を開催し、保護者様同士の関わりや相談の場を提供していく。 定期的に親子(兄弟含む)参加型のイベントを企画していく。
2	◆地域の場の活用や地域住民(子ども)との関わり	土曜日や長期休暇には地域のイベントへの参加や公共施設、公園、店舗の利用等、地域との交流が図れているが、平日の支援では地域の場の活用や子ども達と交流する機会が提供出来ないこと。	平日においても、可能な限り(下校時間が早い時等)公共施設を利用し、地域の場の活用や地域の方との交流を増やしていく。 地域のボランティア団体などの受け入れを行っていく。
3	◆日常生活スキルの幅広さ 小学校1年生から高校3年生までのお子様が行っている為、日常生活レベルが幅広い	年齢だけでなく、日常生活スキルの幅広いお子様に対して、個々に合った内容の活動を提供すること。	同じ内容の活動であっても、個々に応じた難易度の参加方法を考え、提供していく。 個々の強みや課題の把握をしていく。
4	◆介助(補助)のバランス	お子様に対しての関わりが強い一方で、お子様の動きを予見して動いてしまい、過介助になってしまうことがあること。	研修や勉強会に参加する事で職員のスキルアップを図っていく。 日頃から職員間での情報共有を密に行うことで、お子様の主体性を尊重した支援を行っていく。